

一般質問

同じ被害を繰り返さないために



公明党

村田せつ子

問 台風18号の大雨により、日野川・佐久良川の合流地点で濁水があふれ、水田および蒲生SICのアクセス幹線道路の市道が冠水した。同じ被害を繰り返さないために、早急に河川改修計画を示し、整備を進めていくべきでは。

答 災害に強い河川整備を目指していきます。河川改修が進むまで、河道内の掘削や合流地点の浚



台風18号により湖と化した道路と田んぼ

答 専用の機器を導入することについては多額の費用が必要とす。現在は、学校図書館への司書配置を積極的に行っており、今後配置の継続と鮮度の高い図書に努め、読書環境の充実を図っていきます。

溝など、県が適切に管理するよう要望していただきます。今回、河道内の竹林の伐採が行われる予定で

問 子どもたちが読書への意欲を高め、図書館利用の推進を図るため、預金通帳のように貸出日や本のタイトル、著者名が印字され、借りた本の履歴を残す読書通帳導入の検討を。

問 少子化問題に対応するため、結婚、妊娠、出産、育児の一貫した切れ目のない支援を行う地方自治体に国が支援を決定した。産後ケアなど適切で充実



市政太陽

西澤善三

道路整備アクションプログラムについて

問 道路整備アクションプログラムでは、地域性を考慮しているのか。

答 マスタープランは5年毎に見直すことになっています。今回、事業の重点化で早期に効果が現れるように策定しました。なお、幹線道路を対象に均衡ある発展を見据え、ワーキング部会で意見をいただき、地域性も考慮しました。

した計画を。この事業に対して積極的に取り組み、当市の特性を活かした支援を行いたいと考えています。また、まち協では各区のまちづくり計画で道路問題を取り上げている地区もあり、地域の課題として検討されています。

では住民合意が必要であり、小田対地区の県道改修とともに早期着手は困難な状況です。大清水地先の歩道設置と安壺川改修は要望を行います。なお、県のアクションプログラムの中に国道307号バイパスと、今在家八日市線の中岸本地先の整備が位置づけられています。

合併10年市長の所信は



市政太陽

北浦義一

問 当市は合併から10年を迎えるが、合併効果が市民には見えてこない。節目に当たり、合併効果や足腰の強い自治体となれたのか、総点検や検証が必要。

が、10年間の総括も含めてまちづくりの課題を洗い出す必要があると考えています。今後、合併支援措置は段階的に削減されることから、引き続き行財政改革に取り組みが必要があります。歴史と文化や伝統、質の高い農産物など当市の豊かな地域資源を最大限に活用して、地域経済の



離合ができない湖東地区の幹線道路

一般質問

活性化のため、企業誘致や雇用の創出など、攻めの姿勢で施策を展開し、自己完結能力のあるまちづくりに努めていきます。

問 合併10周年の式典を27年2月11日に予定されているが、この機会に市民生活の最高規範となる、東近江市民憲章を制定す

べきでは。
答 合併当初は、市民憲章についての機運が醸成されていなかったため、議論はしていませんでしたが、26年度は合併10年の節目に当たることから市民憲章を協議いただく委員会を設置し、市民からの意見を伺いながら議論を深めていきます。



落ち着いて学習できる環境を



市政太陽

大橋 保治

問 近頃、一部の小学校では、高学年数人が授業中に歩きまわり、他の教室に入り授業にならないケースや、スプレーによる落書き等があり、子ど

もが勉強に集中できません。楽しい学校生活を送れない環境がある。保護者からは、学校生活が不安で、このままで大丈夫なのかという相談



健やかな成長に期待

をいただいている。

学校からは、各家庭に「参観日だけでなく、いつでも子どもたちを学校に見に来て下さい」と学校便りをお願いされている。

このような状況を市は把握しているのか。また、特別支援学級にも影響があると聞くと現状は。

さらに、学級崩壊など学校での出来事が原因で療養休暇を取得したり、離職した教員はいるのか。

答 子どもたちが、教室内で勝手な行動をして、教師の指示や指導に従わず、授業がうまく機能しない状況は市内においても見られます。

スポーツで健康なまちづくり



市政太陽

安田 高玄

問 スポーツを活かしたイベントや取り組みは。

答 市民体育大会、ドラゴンカヌー大会、市民駅伝大会、元日健康マラソン大会などがあります。特に、元日健康マラソンは全国からの参加者があり、年々増加しています。

程度の差はあるものの、同様の報告は、25年度市内3校から受けています。特別支援学級に影響が及んでいることは憂慮しています。子どもたちの規範意識の醸成のため、家庭や地域と連携し、児童生徒が安心して学習で

きる環境づくりに努めていきたいと考えています。また、ここ数年では、学級運営が困難という理由で退職した者はいませんが、休暇を申し出た教員はいました。

10年と短く、招致種目決定に向けての動きも本格化させて、近年の開催地状況等も参考にし、計画

問 36年開催予定の滋賀国体について、当市の考えや方針、競技招致は。



元旦から健脚を競うマラソン大会

答 市の体育事業や国体に向けての予算は。施設整備については、老朽化による改修や耐震化に伴う工事費を計画的に予算化していきます。26年度予算では、国体関係の予算は計上していませんが、競技種目会場が決定次第、必要となる施設の改修等の予算化に努めます。

問 スポーツを通じたまちづくり、人づくりは。
答 高齢化が進む中、健康寿命の延伸を図るため、何らかのスポーツに親しみ、活気ある健康なまちづくりを目指します。また、ルールを守ることや礼儀の大切さを教えることが、心身共に健やかな子どもたちの育成に繋がると思います。